

2003年3月25日
(2006年12月27日一部改訂)
骨髄移植推進財団

連絡責任医師 各位
登録責任医師 各位
調整医師 各位

当財団の「ミニ移植」に関する患者適応の考え方について

ミニ移植 (Mini-Transplant) に関して、2000年5月に発出した認定施設連絡責任医師宛て文書にて、

- ・ P B S C T に立脚した移植法であり、当財団としては積極的に推進する立場にはない。
- ・ ドナーの負担増に繋がる可能性があり、当財団の基本理念に抵触する。
- ・ ただし、施設における前処置の工夫を妨げるものではない。

との見解を示しました。

その後、血縁者間におけるミニ移植に関わる医療面での環境も変化してきたことから、今回、見解を下記のとおり変更いたします。

当財団の移植施設での治療法に関するスタンス

非血縁者間骨髄移植の前処置の内容について、当財団ではなんら制限や規制、規定をもうけておらず、移植施設において判断がなされるものです。ただし、その場合、非血縁ドナーから D L I (ドナーリンパ球輸注、Donor Leukocyte Infusion) を受けることが、必ずしも保証できないことにご留意ください。

なお、移植患者の年齢については現在、制限がありません。

参考

* D L I の調整について

D L I の申請をしても、必ずしも D L I を受けられるとは限りません。

移植施設 (患者) より D L I の申請があったとき、当該ドナーがフォローアップ中でないこと、または、提供に応じないと事前に申し出ていないことを確認後、医療委員会によって審査が行われ、審査を通過した場合、D L I の調整が行われます。調整開始後も、当該ドナーの健康状態、提供意思、都合などによって D L I の提供ができない場合があります。